

PRCWS-01(要旨) 医学教育におけるルーブリック評価の開発と活用 (医学教育専門家更新用講習会を兼ねる)

座長：藤崎 和彦 (岐阜大学) 守屋 利佳 (北里大学) 高村 昭輝 (富山大学) 椎橋 実智男 (埼玉医科大学) 伊藤 彰一 (千葉大学)

各大学の医学部・医科大学では、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、を明示して教育を実施している。シラバスの作成においても、到達目標と評価方法、評価基準などを明示することが求められている。

ルーブリック評価は、学習者の思考力や表現力、プレゼンテーション能力など従来の評価では難しかったものの評価にも適しており、到達目標と評価基準が示されることによって学習者にも分かりやすく、自己評価にも使用が可能である。評価者の立場からは、複数の評価者が評価する際に活用することによって客観性や公平性を持って実施することができるものである。

一方、ルーブリック評価の実施については、評価基準の作成や実際の活用も含め、共有される場も少なく、作成したルーブリックが求める評価に適したものになっているかの判断が難しいことも多い。

この講習会では、ルーブリック評価の理論と実際についての情報を共有するとともに、可能であれば、参加者が使用している評価表もお互いに提示しながらPeer Reviewすることでルーブリック評価への理解を深め、応用できるようになることを目指す。

10119

PRCWS-01-1 医学教育におけるルーブリック評価の開発と活用 (医学教育専門家更新用講習会を兼ねる)

プレカンファレンス企画 ワークショップ1

Developing and using rubrics in medical education

○渡邊 洋子¹, 藤崎 和彦², 守屋 利佳³, 高村 昭輝⁴, 椎橋 実智男⁵, 伊藤 彰一⁶

¹新潟大学 (人文社会科学系) 創生学部, ²岐阜大学 医学教育開発研究センター, ³北里大学医学部 医学教育研究部門, ⁴富山大学学術研究部医学系医学教育学講座, ⁵埼玉医科大学 IRセンター, ⁶千葉大学大学院医学研究院 医学教育学)

Watanabe Yoko (college of creative studies)

近年、高等教育の質保証においては、教育によって到達すべき「目標」(=学修成果)の提示、およびその「評価」(=達成度)の可視化が重視されるようになった。この傾向は、授業シラバスにおいて、到達目標と評価方法、評価基準などの明解な記載が求められることにも顕著といえる。その中で、目指すべき教育/学習の内容と水準、達成の度合いを一目で確認・共有できるツールとして、ルーブリックを使った評価(以下、ルーブリック評価)が目目されてきた。ルーブリック評価は、従来の方法では評価が難しいとされた思考力や表現力、多様な学習形態の評価(実習や実演での態度やパフォーマンス、レポートや口頭発表でのプレゼンテーション能力など)にも適用できるのみならず、教育者にとっては、意図した教育活動がどの程度効果的だったかを振り返る手がかりとして有効である。他方、学習者にとってルーブリックは、何を指して学ぶべきかという学習への取り組みの指標や、何をどこまで達成できたかの自己評価の尺度として有用なものである。評価者においては、複数の評価者が評価する際、客観性や公平性を担保する共通基盤として、活用できる利点がある。しかし、ルーブリック評価を実際にどのように教育現場に適用するか、との観点から見ると、課題は少なくない。総じて、教育目的や対象に応じた評価基準の作成、その実際場面での運用などに関わる実践的な情報・経験共有の場や機会は、それほど多いとは言えない。特に実際場面で作成したルーブリックが期待される評価に適したものになっているかは、教育担当者一人の判断を越えることも多く、そこでの考慮・配慮すべき点についても、いくつもの課題がある。本ワークショップでは、医学(医療者)教育におけるルーブリック評価について、基本的な考え方を共有するとともに、実際に作成・運用する際に求められる具体的な手続きと留意すべき重要なポイントを確認し、現場での教育実践に円滑に適用できるようになることを目指す。*事前学習(ルーブリックの規準案の作成)を行っている参加者を想定(詳細は別途案内予定) *更新対象者にはビデオオンにしての出席管理を実施予定